

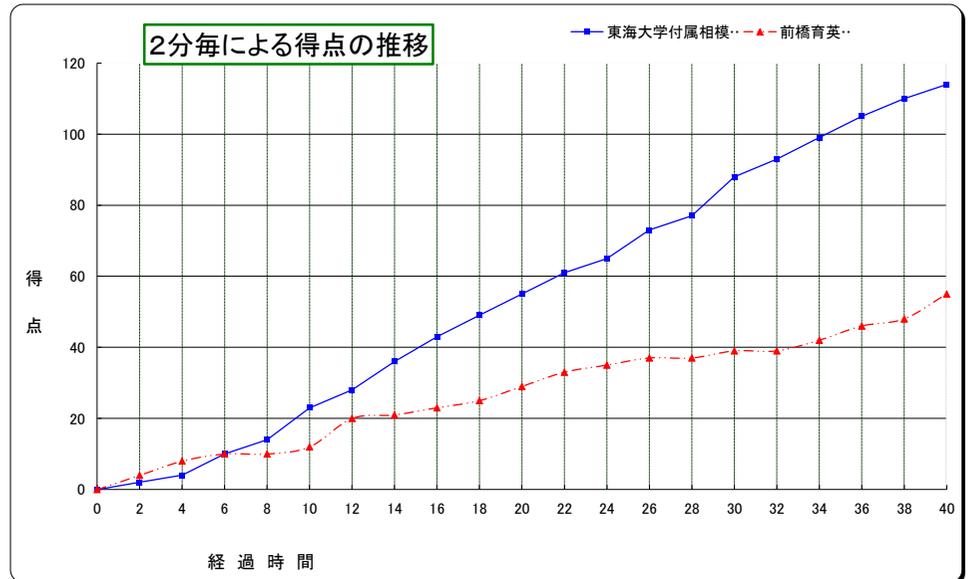
# 平成28年度第70回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成28年6月4日(土)  
深谷ビッグタートル  
Aブロック1回戦

チームA			チームB
東海大学付属相模 (神奈川)	114	{	前橋育英 (群馬)
		}	
		23 1st 12 32 2nd 17 32 3rd 10 27 4th 16	
		55	

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	草柳 翔	2	0	1	1	2	0	0	3	0	2	6	4	0	2
5	伊藤 健二	12	0	0	5	7	2	2	3	2	3	0	2	0	1
6	寒川 光太	10	0	0	5	7	0	0	0	1	9	1	0	0	0
7	和田 麗空	20	0	0	9	14	2	3	2	3	3	3	5	1	0
8	小澤 雅也	8	0	2	4	6	0	0	0	1	2	2	2	0	4
9	兼成 光貴	4	0	1	2	4	0	1	1	1	3	0	0	0	1
10	岡本 佳有	10	2	3	2	5	0	0	1	0	1	1	0	0	2
11	中西 洸誠	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
12	千葉 克紘	13	3	3	2	3	0	0	1	0	2	1	2	0	0
13	梅谷 天志	4	0	0	2	3	0	0	0	0	1	0	0	0	1
14	玉木 海成	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
15	佐土原 遼	18	0	0	8	12	2	2	3	2	5	2	0	0	5
16	森澤 公平	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
17	宇田川 凌汰	7	0	0	3	5	1	2	0	2	1	1	1	0	2
18	染中 渉	6	0	0	3	5	0	0	1	0	0	2	0	0	1
コーチ	原田 政和									3	4				
	確率	114	5	10	46	74	7	10	17	16	36	19	17	1	21
			50.0%		62.2%		70.0%			計	52				

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	相川 勇樹	7	1	4	1	8	2	8	3	1	2	4	5	0	3
5	黒岩 大和	13	0	0	6	10	1	0	3	1	4	0	2	0	1
6	大山 将平	14	2	6	3	8	2	4	1	1	1	1	0	0	7
7	瀧 稜太	8	0	0	4	10	0	0	3	2	3	2	2	1	4
8	榊原 彬士	4	0	3	1	5	2	2	1	0	1	1	0	1	0
9	樋口 楓	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
10	長谷川武巳	3	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2
11	柴多 慧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	武田 魁雅	0													
13	津久井洋暉	2	0	0	1	3	0	0	1	0	1	1	0	0	1
14	土田 昇平	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
15	入澤 翔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1
16	村上 翼	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1
17	近藤虎ノ介	4	0	1	2	3	0	0	0	0	0	0	1	0	2
18	萩原 健斗	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	0	3
コーチ	加賀谷 寿									3	3				
	確率	55	3	14	19	52	8	15	15	10	19	9	12	2	28
			21.4%		36.5%		53.3%			計	29				



## 戦評

第1P、両者ハーフコートマンツーマンでゲーム開始。初戦であるため、両者硬さがみられアウトサイドシュートが短い。高さでは不利な前橋育英だが、#5がハイポストプレーでシュートを沈める。リズムのきた前橋育英は、速い展開に活路を見出し#5左コーナーから連続でジャンプシュートを沈める。対する東海大相模は、#6のインサイドプレー#7ドライブインの連続得点で逆転する。東海大相模はディフェンスも本来の厳しさが戻り、前橋育英のターンオーバーを誘いたまらず#8が#7に対してアンスポーツマンライクファウル。流れを完全につかんだ東海大相模が、そのまま走り23対12で終了する。

第2P、東海大相模は第1Pの流れそのままに、#12の3Pをリズムよく沈める。また、前橋育英のウィークポイントであるインサイドを#6と#15を使って徹底的に攻めてくる。引き離されたくない前橋育英は、#6が3Pを2本沈め意地を見せるが、1対1が通用せずミス連発。その間に、東海大相模に走られ55対29と差が広がりました。

第3P、少しでも差を縮めたい前橋育英だが、東海大相模の個のディフェンスの強さに攻め手がなく、スクリーンプレーからの単発なシュートしか決まらない。逆に東海大相模は、#7が起点となり、ドライブインそしてドライブインからインサイドヘスキップパスなど躍動する。東海大相模が怒涛の攻撃を展開し、88対39と大きく引き離し試合を決める。

第4P、東海大相模はベンチメンバーに交代し、2回戦を見据えた展開。対する前橋育英は、爪痕を残すべく#4を中心にディフェンスで仕掛けてくる。しかし、東海大相模は前橋育英のターンオーバーを誘いレイアップを積み上げる。終始危なげなく試合を展開した東海大相模が、114対55で勝利する。しかし、最後まであきらめずボールを追い続ける前橋育英は高校生らしく、点差を感じさせない会場の空気をつくっていた。

記録者: 白井 崇義

Ref	山岸大輔	1st U	羽富宏紀	2nd U	
-----	------	-------	------	-------	--